

相見文庫蔵『新書画展観目録』翻刻と解題（上）： 寛政期の京都書画壇と皆川淇園

田邊，菜穂子
九州大学大学院博士後期課程

<https://doi.org/10.15017/8976>

出版情報：文献探究. 41, pp.56-73, 2003-03-31. 文献探究の会
バージョン：
権利関係：

相見文庫蔵『新書画展観目録』翻刻と解題（上）

—寛政期の京都書画壇と皆川淇園—

田邊 菜穂子

はじめに

相見香雨氏の旧蔵書の一部（三八五点）が九州大学に寄贈されたのは、昭和五十九年。それらは現在、「相見文庫」として、九州大学文学部図書室に収められている。

その中に「新書画展観目録／寛政八年外四回分／并文鳴十三回忌展會記／芳齊日記添フ」と墨書された和装本一冊がある。相見氏は「東山の書画会」と題する一文において、京都東山で行われていた新書画展観の概要を記したが、この書物は、その際に資料として用いられたものである。

題から知られるように、本書は書画会に出展された作品の目録である。四回分の目録が合綴されており、内訳は以下のようになっている。なお、これら各目録の外題は類似しており、いささか紛らわしいので、便宜上、本稿ではA～Dの記号と書画会開催年次を冠した仮題を付けた。以下、そのアルファベットや仮名を用いて、解説を進めることとする。

- A 寛政八年秋展観目録
- B 寛政九年春展観目録
- C 文化三年春展観目録

D 文政八年秋展観目録

紙幅の都合上、二号に互って、これらの資料の紹介と翻刻を行うこととし、今回は、先ずそのうちのA・B、二種の目録を取り上げる。

さて、寛政期の京都東山書画会について、最も早くに言及したのは、本書の旧所蔵者、相見氏である。「書画骨董雜誌」八十八号（大正四年）に掲載された「東山の書画会」（註下）には、書画会の概要のほか、長沢芦雪の五百羅漢図と中林竹洞の山崎姓についての考察を記す。

この後、「美術史学」昭和十九年一月号に、脇本葉之軒氏が家蔵本を用いて寛政八年秋展観目録を、同年三・四月合併号では、相見氏家蔵の同一本三冊のうち一冊を寄付されたとして、寛政九年春展観目録を、それぞれ翻刻している。本稿では、これらの論考を参考にしつつ、重複しない事柄について解説を加えると同時に、脇本氏の翻刻における不備や欠落を補ってゆくこととした。また、凡例にも示したように、九大所蔵の展観目録には墨または朱の書き入れが散見する。これらが寛政期のものなのか、後年の所蔵者の手によるものなのかは、今判断としないが、ともあれ、出展者の称や住所などを書き加えたこの墨書きも見逃し難く、あわせて翻刻することにした。

一 寛政期の書画会と目録

たとえば『平安人物志』は、天明二年（一七八二）版の次に刊行されたのは、文化十年（一八一三）のこと。その空白期間に該る寛政期に刷られたA・Bは、当時の京都書画壇を知る上で非常に有効な資料であることは疑いようもない。更に、この展覧の出品者は、『平安人物志』に載るような著名人のみではない。有名・無名、老若男女、御用絵師から非職業画家まで取り混ぜ、流派を限ることともなかった。そのことも、この書画会及び本資料の価値を高める重要な要素と言えよう。また、本書には多くの文人達の名も見え、書画壇のみならず文壇の研究にとつても好資料となっている。にも拘らず、近世文学研究において、この資料の利用される機会を多く見受けられないのは、伝本が極めて少ないことに起因するか。

管見によれば、A 寛政八年秋展覧目録は、相見文庫本と脇本文庫本^{註2}の二点のみ、B 寛政九年春展覧目録は、相見本、相見氏から譲られたという脇本文のほか、刈谷市中央図書館村上文庫本（国文学研究資料館所蔵マイクロフィルム 30-10989）の計三点しか伝わらない。展覧目録という資料の性質上、発行部数も少なかつたに違いないし、後印本が存在するはずもないので、伝存が少ないのはやむを得ない。なお、B 寛政九年展覧目録中の挿絵横に「雅集席上記」と彫られた印が見え、この目録が、展覧終了後に記録・報告を兼ねて刊行されたものであると分かる。

さて、この東山で行われた新書画展覧の発起人が皆川淇園であること、そしてその始めが寛政四年であることは、早くより知られるところである^{註3}。

書安喜生得小幅五百羅漢図事

蓋シ余嘗テ欲シ振^シハント京師・浪華・江戸ノ書画ヲ、因^テ勸^メ平生所^レノ識^シ諸書

画家^ニ、毎歳春秋期^レシテ日^マ、各携^ハ其^ノ所^レノ為^ス書画^ヲマ^リ集^メ会^ス于東山^ニ。
命^ジ曰^ク「フ新書画展覧^ト。自^ニ壬子^一至^ルルマテ去歲戊午^ニ、凡^ソ十四会^ニ、毎会所^レ集^ス或^ハ至^ル三四百幅^ニ。乃^チ其^ノ所^レノ風靡^ス、至^リ有^リ海外諸邦^ノ民^モ亦^シ寄^シセ人^{其^ノ所^レ為^ル、以^テ列^中スルト之^{其^ノ会中^ニ。噫亦盛^ナリ矣。是^ヲ以^テ、京師ノ諸}書画家^{遂^ニ又競^ヒ出^ニ新奇^ト」。}}

（文化十三年序『淇園文集』前編卷十一^{註4}）

京阪及び江戸の書画壇振興を願い、常より交流のある書家・画家に声を掛け、毎年春と秋の二度、東山において書画会を開催した。それは壬子（寛政四年）から戊午（同十年）までに十四回に及んだと言っただから、毎年欠くことなく行っていたということになる。

この書画会の開始と殆ど期を同じくして、寛政四年閏一月に『淇園詩集^{初編}』（三卷三冊）が刊行された。この年『続虚字解』（二卷二冊）も上梓。淇園五十九歳にして、その活動は精力的で、生彩を放っていた。この後、淇園の文集は二種発刊されている。一つは『淇園文集^{初編}』（三卷三冊、寛政十一年仲冬刊）。これには、寛政四年、西河永成の序、同十一年柚木太淳の後序が備わる。恐らくは、先に出た『淇園詩集^{初編}』と同じ時に成ったものであつたろうが、如何なる理由があつたのか、些か時を経ての刊行となつた。いま一つは、先述した「書安喜生得小幅五百羅漢図事」が載る、木活本『淇園文集』（前編十二卷十二冊、後編三卷三冊）。刊記は無いが、前編は文化十三年の序を持つので、淇園が文化四年五月十六日に没した後に、編纂されたものと思われる。

さて、これらの文集を捲っていくと、淇園が当時の諸書画家と密接な繋がりを持つていたことがよく見てとれる。請われて画賛を送ることも度々であつた。展覧のことに關する記述も散見するので、以下、年次順に抜き出した。

寛政四年 壬子 淇園（以下同）五十九歳

◎春、初めての新書画展観開かれる（文化十三年序『淇園文集』前編卷十一）
「書安喜生得小幅五百羅漢図事」。

寛政六年 甲寅 六十一歳

◎仲秋五日、東山双林寺にて新書画会。文中に「新書画展観」の語はないが、書画会の開催時期や場所等からみて、いわゆる東山の新書画会であろう。後に三百も集まることとなった出品点数も、この時点では少なく、「凡五十幅」である。

書画展観品目名字録首引

芸事以テ篤ルヲ為シ選ト。而シテ不レレバ観之ヲ於其ノ聚ニ、則チ靡ニシテ以テ昭ニシテヲ示スルコト其ノ雋ルヲ焉。且也。巧者ハ可ニシテ鑑ミルヲ。拙者ハ可ニシテ効フヲ。是レ余之所ニ以テ勸ムル書画家相聚ニ。之ノ志是ヲ以テ地無ク分ツコト遠近ニマ、人無シ論ズルヲ。業与ニ不業、皆各以テ其ノ所ヲ作ルヲ。列スニ堂之上ニ。而シテ其ノ月日品評任セテ之ヲ衆目ニ。而優劣自ラ分ル乎不言之中ニ矣。此レ又其ノ衆所ノ相聚云ニ。スル之本志也。甲寅仲秋五日始会ニ。於洛東双林寺ニ。其所ノ駢列ニ。書画凡ソ五十幅。今ニ其ノ品目名字ヲ以テ識ス。其ノ盛ル事ヲ於他日ニ。如シ余拙作ノ乃チ亦所レ謂レ請レ自レ陳始ル者耳。

（文化十三年序『淇園文集』前編卷六）

寛政七年 乙卯 六十二歳

◎三月二十五日、東山多蔵庵にて新書画展観。

杉林茂信所集書画冊序

乙卯春三月念五日、余作ニス書画会於東山多蔵庵ニ。凡ソ海内之能者率皆寄ニ致ス其所レ作ス書画ヲ。而シテ京師ノ名家大率皆集ル。其日杉林茂信来リ。造リテ庵ヲ而謁シテ予ニ曰ク、僕考妣ノ墓塋在リテ東山某地ニ。而僕近構フ小庵ヲ於其塋ノ側ニ。以テ考妣生平並ニ皆好ニクスルヲ書画ヲ故ニ欲ス得レ諸名家ノ書画ヲ、以テ為ニ庵中之所蔵ト、而供ヘテ先人之靈玩ト。今聞ク斯会ノ諸彦皆在リト。願ハ藉リテ先生之力ヲ、以テ請ニテ諸彦之筆跡ヲ于此冊ニ。余感ジ其孝思之深至ナルヲ乃チ為ニ請ヒ諸賢ニ、各占メ其冊ノ一紙ヲ、又為ニ識ニス其事ヲ於首端ニ。

（文化十三年序『淇園文集』前編卷一）

書飲中八仙歌図双幅副卷

弟剛中画ニ飲中八仙図ヲ。余為レニ之ヲ書シ杜甫ノ歌ヲ作ニス之ヲ図副ト。乙卯春三月二十五日、与ニ諸友一作地ニ新書画展観会ヲ于東山多蔵庵ニ。余即チ命シ掛ニ其ノ双幅ヲ。時有ニ備前兒島那須耕助。適ク来リテ在京ニ与ニ其会宴ニ。及ニ其帰也。余因テ遂ニ以テ其ノ双幅ヲ贖ル其別ニ。耕助帰ルノ後、需ム之ヲ記ヲ。因テ為レニ書ス之ヲ。七月八日

（文化十三年序『淇園文集』前編卷六）

寛政八年 丙辰 六十三歳

◎九月二十七日、東山端寮にて新書画展観。（A 寛政八年秋新書画展観）

寛政九年 丁巳 六十四歳

◎三月廿七日、東山清水寺にて新書画展観。（B 寛政九年春新書画展観）

寛政十年 戊午 六十五歳

◎四月、新書画展観。長沢芦雪、方寸幅五百羅漢図を出展す。なお、東山の
新書画展観、この年までに計十四回、開催。

(前略) 長沢芦雪素^可以^レ善^ク畫^ラ聞^コユ。而^テ筆^尤キ縦^横ニシテ、乃^チ
其^ノ所^出ス、毎^ニ会^登奇^ナリ。去^歲夏四月^ノ會^所ノ出^ス方寸^ノ幅^中作^ル五百羅漢^一
一^ニ。 (中略) 寛政己未 (田邊註十一年) 秋八月十一日

(文化十三年序『淇園文集』前編卷十一「書安喜生得小幅五百羅漢図事」)

以上、『淇園文集』を中心に、寛政期の東山書画会の様子を探ってみた。こ
れだけでも展観が毎年、恐らくは春秋の二度、開催されていたことの傍証とな
り得るだろう。

二 寛政八・九年書画会に関する覚書

(1) 書画会主催者嘯風亭

嘯風亭は、会の運営を掌った人物であるが、目録より同時に出品者であった
ことも知られる。「墨竹 雄選 号嘯風亭 霞橋門人」(寛政八年)、「墨竹 雄選 霞橋門人 称新六」
(同九年)。雄選は霞橋、即ち池大雅の門人であった。
文化十年刊『平安人物志』(「好事」項)には「秦 良選 字擇男嘯風亭 姉小路泉洞院東 称新六 雄崎
新六」とある。姓名を一字ずつ修し、「雄選」と名乗っていた。

この人物については相見氏の「池大雅」^(註5)、『池大雅』大正五年八月、美術
叢書刊行会・「大雅の画譜」(「南画研究」一ノ一〇)二ノ五、昭和三十二年
十二月―三十三年五月)に詳しく、晩年の大雅に最も近い人物の一人であっ
た。

とは言え、この人物についての伝は少ないので、ここに一つ加えておく。
筑前国より上洛した大熊言足が嘯風亭を訪れた。文政六年四月のことである。

廿五日。祐匡主の兩人、名古屋より美濃路をへて、嘯風亭にいたり、扇
面帖を見る。帖中、大雅・玉瀾・栗山・淇園・栲亭など、諸名家書画も
らさずのせたり。大雅堂遺印、數顆押しかへる。彼名高き已千里道行、
未讀百卷書、また半癡半點主人など刻たる印も此家にあり。

『大熊言足紀行』^(註6)

文化十年の『平安人物志』「好事」の項に掲載されて後、嘯風亭は後版の同
書に名を見せないの、いわゆる「好事」者としての活動は、もはや第一線を
離れたものであったのかもしれない。少なくとも、世間にはそのように認識さ
れていたであろう。しかし、いまだ存命、大雅の遺品を大切に所蔵し、遠国
より訪うた人に閲覧を許していた。

(2) 寛政八年展観の開催場所

書画会開催場所について、脇本氏は「九年春の会場とした清水寺は恐らくあ
の成就院あたりであらうが、八年秋の端寮は何処。」と書いている^(註7)。A 寛
政八年展観目録に「寛政八丙辰秋九月二十七日東山端寮展観」とあるが、確か
にこれだけでは、何処なのか分りにくいかもしれない。

「端寮」とは現在の東山区円山公園内の安養寺にあった。
天明三年三月、俳諧師暁台は芭蕉百回忌取越追善を興行した。幻住庵、金福
寺、そうしてもう一箇所、洛東安養寺端寮においてである^(註8)。
安養寺としては、今、本堂しか残らないが、もとは「円山六坊」と言われた

塔頭（勝興庵正阿弥・長寿院左阿弥・多福庵也阿弥・花洛庵重阿弥・延寿庵連阿弥・多藏庵春阿弥）を有していた（註9）。端寮とは、このうち、花洛庵を指した。寛政十一年刊、秋里籬島編『都林泉名勝図絵』（五卷五冊）（註10）を見てみよう。

円山 安養寺といふ。吉水大懺法院の故墟也。慈鎮和尚棲給ふ事百鍊抄に

見へたり。坊舎六宇山崖に建続て、亭閣、林泉、玲瓏として洛東の佳境也。

長寿庵左阿弥・勝興庵正阿弥・花洛庵清阿弥又端寮といふ・多福庵也阿

弥・延寿庵連阿弥・多藏庵春阿弥。（後略）

同書中、円山安養寺の絵は、実に十一図にも及ぶ。そのうち件の端寮は、「玄関」の図、それから庭と三層の建物の図、の二つが収まる。図中には、描かれた名所に関する和歌や漢詩、俳諧の発句が彫られており、端寮の圖には三宅嘯山「遊端寮」と六如庵慈周「東山席上題円心拳画」の詩が見られる。

東山席上題「ス円心拳画」

山秀テ川廻テ抱「ク帝州」ヲ

欄前ノ万景在「リ毫頭」ニ

丹青天下無双ノ手

佳麗東山第一楼

右指言端寮也

永田観鷺曾「大書」此五字「扁」ス于其楼「ニ

六如庵慈周

円山安養寺の花洛庵清阿弥は、「端寮」とも「東山第一楼」とも呼ばれ、そこに集う人々に親しまれてきた。淇園の詩集や文集にも、「端寮」、「東山第一楼」の字は度々見られる。今、指摘すれば「春晩同諸子宴於東山第一楼」（『淇園詩集』編卷之二）、「送高野生婦水戸 東山端寮韻得「先」（写本『淇園文集』卷一）、「東山端寮送僧志徳帰播」（同卷二）など。

淇園を含め、当時の在京の者にとつて、端寮は、宴会の場として、更に書画会などの会場として、非常に馴染み深い場所であった。また、先に記したように、寛政七年春の新書画展観は、「東山多藏庵」で開かれており、これもまた、安養寺の六坊の一つ。端寮だけでなく円山六坊全体が、麗しい庭園を有し、京の町を見下ろしながら寛ぐ、遊興の場の存在であった（註11）。それは先に挙げた、『都林泉名勝図絵』に掲載される十一葉の画にも明らかである（註12）。既に延宝五年刊『出来齋京土産』中に、この寺を指して「遊覽酒宴の場」とする。ここで行われた新書画展観も、或いは肩肘の張らない、飲食をも伴った会であったのかもしれない。

三 翻刻

凡 例

- 一、九州大学文学部図書室「新書画展観」（相見文庫・和・30）を底本とした。
- 一、本書は四点の資料が一冊にまとめられた合綴本である。よつて、先ず本書全体の書誌を示し、一点毎の書誌はその翻刻の前に一々示した。
- 一、原本の記載通りに翻刻することを基本とし、漢字の旧字体も全て原本のまま

まとした。割註表記も原本に従ったが、行間などの都合上、表記出来ない場合のみ「／」を以って改行の印とした。

一、絵については「絵〈〉」と示した（〈〉内に絵柄の説明）。

一、印については「印〈〉」の如くに示した（〈〉内に印文。なお、その際、朱印実捺は「朱印〈〉」、印影を彫りつけて墨刷りにしたものは「刷印〈〉」と表した。

一、改頁などは「一才」の如くに示した。

一、書き入れがある場合、「朱」「墨」のように表した。

一、虫損等で解読不可能の箇所は□で示した。

書誌

所蔵 九州大学文学部図書 相見文庫・和・103（合綴）

書型 縦一四・三糎 横八・八糎

表紙 後補。鳥の子色地に煎茶色の斜め格子縞。

外題 「新書画展観目録／寛政八年外四回分／井文鳴十三回忌展會記／芳齋

日記添フ」と打付墨書。

構成 A 寛政八年秋展観目録

B 寛政九年春展観目録

C 文化三年春展観目録

D 文政八年秋展観目録

蔵書印 Aの表紙に「相見氏／圖書記」(二・六糎 一・八糎)の印。その

他の印については、AとBそれぞれの書誌の箇所を述べる。

(A) 寛政八年展観目録

(1) 書誌

書型 縦一四・三糎 横八・八糎

表紙 原表紙。薄茶色。無紋。

外題 「新書画展観目録 全」(子持ち梓・左肩・刷り)

構成 本文二十一丁半

匡郭 四周单边(二・七糎 七・五糎)

罫 有り

板心 「辰九 一」(二・二糎)

丁付 一と二十一

挿絵 半丁(二ウ)

印 「相見氏／圖書記」(表紙中央下方 朱陽長方 二・六糎 一・八糎)

「嘯風亭／圖書記」(見返し左下方 朱陽長方 縦四・一糎 横二・

三糎)

備考 墨の書き入れあり。

(2) 翻刻

新書画展観目録 全

朱印〈相見氏／圖書記〉

「表紙

東山新書畫

展観「朱印〈嘯風亭／圖書記〉

「見返し

絵〈墨菊図〉

「一才

寛政八丙辰秋九月二十七日東山端

寮展観

目次

右丞相大炊公書及七卿五侯書畫通

計十三幅見別卷

墨畫壽星

行書五大字

墨竹

楷書紅梅詩

篆書五大字
大平紙本
大 幅

墨菊
皆川淇園讀

武人避雨圖

村女携花圖
右對幅

艸書夏夜獨酌詩

濃彩養老瀑布
絹本

行書岩垣龍溪詩
牙頰寫
詩意

隸書管公画像詩
絹本

行書
一枕清風
直萬錢

墨畫山水

楷書書丹銘

行書雪月詩
岸雅樂助寫
詩

同雪鴉詩
吳月溪寫
詩意右對幅

墨竹

楷書書論
八韻
八韻

五百羅漢圖
絹本

四木希仙
称八郎兵衛

三宅乙龍
七歳童
嘯山孫

岸卓堂
十一童
雅樂助男
若藩眼医官

海吉王
柚木門人
名孟熙

源雲林
称織田縫殿助

平岐山
称幸三郎

大井春濤

全

皆川淇園

土佐守
土佐光貞

木子玉
岩垣
門人

上田蘭
(墨) 伊豫寺

源南汀
永田門人

世古雀
(墨) 称権助
聖護王府士

林正典
号藏六
永田門人

柚木鶴橋

全

僧明堂
名宗昭

源西河
称永田主書

滕若冲

1ウ

着彩富岳圖
絹本

行書湖莊詩
并画

墨梅

楷書淵明詩

行書詩二首

源語第一卷圖

夜伯圖
并讀

水墨山水

淡彩鯉圖
絹本

艸書尋隱者詩

着彩牽牛花
絹本

行書漁村詩
祝堂寫
詩意

着彩牡丹衆禽
絹本

行書經語

水墨山水

淵明圖

水墨山水

着彩宋諫臣
絹本

同梅鷄
絹本

楓溪雅集圖

行書山水詩

水墨月竹

着彩羊
絹本

法眼東洋

江村大臨
另岳
北嶺

吳月溪

源邦彦
称龜造
岩垣門人

僧蕉中

恒枝光安
称尊造
土佐門人

松山元吉
字大成
竹葉門人

僧馨曜
(墨) 尾州人
能州人
岩垣門人

源卓章
称龍巖
圓山門人

島中觀齋

源應瑞
称圓山主水

清龍川

源琦
称駒井幸之助
筑前文字

龜井道載

餘夙夜
住大雅堂

紀竹堂

僧馨曜
再見

内藤如園
若州人
岩垣門人
号山齋

山口素綯
名駿(註13)
岩垣門人

河村文鳳
称彦助
岩垣門人

柴野栗山
作州人
江戶權臣

平野叙之
竹葉門人
再見

源卓章
再見

尾州人

尾州人

尾州人

尾州人

尾州人

尾州人

尾州人

尾州人

尾州人

尾州人

尾州人

尾州人

尾州人

尾州人

尾州人

尾州人

尾州人

尾州人

尾州人

尾州人

尾州人

尾州人

尾州人

4才

4才

4ウ

5才

5ウ

| | | | |
|-----------------|-------------------|-------------|--------------------|
| 水墨山水 絹本 | 小栗金壺 名光胤 岩堀門人 | 楷書放翁陸詩 | 清溪 上門人 称吉田忠藏 |
| 墨画大公望 | 藤原光孚 土佐備後助 | 着彩八仙圖 | 片山 岳 称周庵 |
| 行書葛原晚帰詩 | 大町若水 名淳伯 | 水墨官奴逢妖圖 | 村上松堂 称元丞 |
| 着彩五猿 | 恒枝元章 称金吾 土佐門人 | 行書杜詩 七律 | 小島牧卿 称典膳 墨王府士 |
| 行書秋蝶詩 | 鈴木桂雲 福山医学 | 水墨山水 絹本 | 山崎成昌 号兼薫 尾州人 |
| 着彩櫻花 | 平氏 名惠一 緒田岐山室 | 墨蘭 | 土方稻嶺 因州人 |
| 水墨竹 并詩 絹本 | 僧玉 | 行書古詩 | 植田久圓 |
| 行書題隱居詩 | 源五雲 岩堀和基守 | 着彩 鳥 絹本 | 源波響 松響齋 執政 |
| 着彩美人圖 絹本 | 源瑛昌 称上殿重言 圓山門人 | 行書烏衣巷詩 絹本 | 橘梅僊 前石見介 |
| 同猫 | 原在明 在中次子 | 同鶴詩 寄柚木 雀籠詩 | 毛俊臣 名冠号宗 經室球大夫 浪華人 |
| 水墨山水 乃翁讓 絹本 | 村井氏 痴道人女 | 水墨山水 | 武禪 浪華人 |
| 着彩宋主碎七寶筥圖 絹本 大幅 | 可觀堂 称岸雅樂助 | 艸書紅友詩 | 源東塙 称出原伊平 |
| 行書茶歌 | 細合半齋 名方明 | 艸書贈友詩 | 村上彦峻 |
| 着彩王母圖 絹本 | 源章 称井川彦衛 圓山門人 | 水墨藍采和 | 八田虎洲 |
| 同楊妃圖 絹本 | 源豊彦 称岡本幸平 月溪門人 | 淡彩張良賣劍圖 | 岡田伯寬 播州人 |
| 同卓文君圖 右對幅 | 全 | 着彩龜圖 | 蘇子黃 文璧号勇 佐久間門人 |
| 艸書五大字 文章老自知 | 畑橘洲 醫院 法印義子 | 同鶴圖 | 黒川仲徳 艸僊甥 |
| 着彩花鳥 絹本 | 白芝山 淡州人 | 富嶽秋景圖 絹本 | 加茂専顯 山本伊豫 權守 |
| 行書秋夜詩 | 源長尊 称葦藏 岩垣支族 | 水墨菊 | 僧觀了 能州人 |
| 着彩賞楓圖 絹本 | 佐久間艸僊 | 行書山水詩 | 田暢齋 霞橋門人 名器 |
| 淡墨山水 絹本 | 僧自淨 圓山門人 | 同春夜 七絶 | 僧六如 伊勢人 |
| 行書二大字 露海 | 井上吉久 百太郎 上田門人 | 同菊詩 | 松浦長義 |
| 同一番讀兵書詩 | 杉岡公曙 名道 啓 伏木王/府医官 | 着彩瀑圖 絹本 | 秀雪亭 名龜 圓山門人 |
| 水墨山水 絹本 | 大原吞響 松前藩 門客 | 水墨山水 并詩 | 在原無極 伏水人 |
| | | 著彩八僊圖 | 飛田文真 称文藏 同門人 |

| | | | | | | | | |
|--------------|------|--------------|-----|---------|----------------|------|--------------|-----|
| 墨梅 | 吉村蘭洲 | 圓山門人 | 11才 | 墨画寒山拾得 | 絹本 | 白井直賢 | 圓山門人 | 13ウ |
| 淡彩山水 絹本 | 田村長蘭 | 称士兵衛 | 11才 | 行書西湖詩 | | 平章 | 称善一 上田門人 | 13ウ |
| 山水春景 絹本 | 中村鳳中 | 浪花人 | | 艸書友至詩 | | 田庸之 | 称善平 浪花人 | |
| 同夏景 同 | 全 | | | 楷書韓公碑 | 大幅 | 慶興 | 雲松齋 | |
| 着彩仙閣圖 絹本 | 源東谷 | 名政 江戸人 | | 彩画鹿 | 絹本 | 柴如玉 | 備閑人 月溪門人 | |
| 彩画花鳥 絹本 | 阮道卿 | 称樋口 源左衛 | | 着彩紅葉翠鳥 | 絹本 | 源景文 | 称杉村直二 月溪弟 | |
| 雪梅圖 絹本 | 僧維明 | | 11ウ | 行書五大字 | | 河合東洲 | 称式部 魚井門人 | 14才 |
| 草書山水詩 | 馬谷 | 園部文学 | | 草書二大字 | 觀鷲 | 堀騰雲 | 称文太夫 | |
| 行書桃山懷古詩 | 中居竹山 | 浪花人 | | 行書詩二首 | 山靜以本古 目長如小年 | 餘東郭 | 字虎卿 在蘭 | |
| 艸書古詩 一聯 | 橘觀齋 | 名應 | | 同送別詩 | | 三宅嘯山 | | |
| 行書青蓮詩 | 伊藤東所 | 古義堂 | | 水墨蟾蜍 | 白山贊 | 松本奉時 | 浪花人 | |
| 同秋蝶詩 | 赤松大業 | 赤穂文学 | 12才 | 着彩櫻花 | | 三熊氏 | 字露馨 梅堂妹 | 14ウ |
| 着彩桃林會盟圖 絹本 | 僧觀月 | 大泉寺 | | 行書 | 江邊橋落 菊花黄 | 國松氏 | 字都美 近藤正平 | |
| 草書紅葉詩 | 圓秀明 | 称作兵衛 江州人 | | 同月夜詩 | 藤貞固 | 藤憲時 | 名 近藤正平 | |
| 着彩山水圖 絹本 | 劉嵩臺 | 福知山 文学 | | 艸書落葉詩 | 七絶 | 岸友仙 | 名歟 柚木西人 | |
| 行書金福寺詩 和清龍川詩 | 賴千秋 | 文学 | | 淡彩布袋和尚圖 | | 黒川竹溪 | 竹堂門人 | |
| 同雨中詩 七律 | 源栲亭 | | 12ウ | 行書笠翁詩 | | 長澤貞隣 | 名貞 上田門人 | 15才 |
| 墨蘭 | 兼葭堂 | 浪花人 | | 行書山谷詩 | | 細邊子田 | 称元厚 上田門人 | |
| 隸書 書畫於自然 | 粟度甫 | 永田門人 | | 着彩蘆鷺 | 并詩 | 檀徂卿 | 称藤長衛 竹盛門人 | |
| 行書有感詩 | 大川滄洲 | 字瓊花 金壽母 | | 同春山賞遊 | 絹本 | 膝關山 | 名正之 | |
| 水墨山水 絹本 | 平氏 | | | 行書山水詩 | 五律 | 藪四明 | 称茂二郎 | |
| 墨竹 絹本 | 市川君圭 | | 13才 | 篆書牧齋詩 | | 文雅堂 | 名良映 | 15ウ |
| 行書題画詩 | 安黙卿 | 江州人 五門人 | | 水墨山水 | 細橋洲贊 | 阮南溪 | 称長左衛門 | |
| 露竹圖 | 佐野山陰 | 阿州 文学 | | 着彩桂樹 | 絹本 | 山跡鶴嶺 | 称貫一 | |
| | 小林龜溪 | 称願堂 在相公陸守 | | 淡彩壽星 | 三浦乾賢 絹本 | 僧月仙 | 五瀨人 | |

墨画海蟾鍊粉 絹本

行書蘭詩

着彩菊

淡彩鶴 絹本

楷書二大字 寬麗

行書美人圍碁詩 五律

文丞相圖 絹本

淡彩茅齋圖 絹本

楷書桃源記

着彩鯉圖 絹本

水墨虎

行書 閑看秋水 心無事

着彩木綿鴿圖 絹本

淡彩山水 絹本

墨画寒山拾得

同鴈蘆 絹本

行書蓮詩

墨画弄胡孫

行書五大字

墨画月雁

水墨 鷺

著彩布袋和尚圖 絹本

行書經語

墨画山水

行書朱文公詩

狩野永傳 称内匠

藤正芳 称監物

武市氏 土藏女 岸門人

高島氏 字藁蘭 同門人

村田中龍 名祐信

太田玩 淀文學

紀竹堂 再見

狩野永誼 称東馬

白芝山 再見

片山楊谷 称寯馬 因州人

西村楠亭 名豫章

藤正懿 称伊達節司 水田門人

上坂義篤 称忠兵衛 月濤門人 名辰

澤貞龍 圓山門人

山本探淵 應奉次子

木應受 土藏女 濃州人

江馬氏 称傳二郎

赤石鈍雅 皆川門人

寺田子鸞 称傳少進 山本門人

山口貞恒 称茂助

栗山風谷 画官

鶴澤探索 九十五翁

西依成齋 双林寺 認学

僧月峯 称崎一郎

文翠 上田門人

16才

同勸学詩

艸書七大字

淡彩王母 絹本

行書壽星詩

水墨山水

行書座右銘

墨画東坡

俳諧歌意图 每小圖録 桃青句

着彩鷄冠花 絹本

墨画松下問童圖

都人賞花園

隸書山水詩

着彩木芙蓉 絹本

同山水

行書韋應物詩

着彩狗子圖 絹本

同蘇晋長齋圖

淡彩鼠圖

同山水

着彩壽星圖

墨画 王維鷓鴣 詩意并詩

艸書五大字 絹本

墨竹

官維一 名精 永田門人

角子寶 称清藏

谷文晁 称文五郎 江戸人

澤信 六盛堂 上田門人

僧雪峨 丹波人

三崎温亭 称主銘

長澤蘆雪

河村文鳳 再見

紀元直 嶋田主計頭

源正鄰 称入李 嶋田門人

田中楠塘 称直造

松本愚山 名慎

源輝 称臉數彦九郎 圓山門人

田村壽秀 号東溪

藤潤甫 濱路少監物 上田門人

直行 称佐々木俊助 圓山門人

甲賀文麗 村上門人

白井直賢 再見

青來 称左平

岡田伯寬 再見

皆川淇園 再見

村井中漸 八十九翁

雄選 号嘯風亭 霞橋門人

18ウ

19ウ

20才

20ウ

以下八家雖歸泉下未周年故樓西廂

掛之聊漏追慕意耳

「巳三二二」(二十二) 嘯風亭

水墨山水 絹本 津田一清

行書梅魂詩 香山適園

淡彩鴨 絹本 源應舉

楷書枯詩 七律 伊藤君嶺

墨竹 絹本 吉田元陳

行書秋夢詩 七絶 柚木太輔

同舟行曲 詞餘 源東江

墨画龍 絹本 風折有丈

右通計二百十二幅隨見而録之云

平安雄選識於嘯風亭

「21才

「21ウ

「裏見返し

(B) 寛政九年展観目録

(1) 書誌

書型 縦一四・三種 横八・八種

表紙 原表紙。薄茶色。無紋。

外題 「新書画展観目録 全」(子持ち杵・左肩・刷り)

構成 序半丁、本文二十二丁、跋半丁

序文 皆川愿(皆川淇園)

跋文 愚山(松本愚山)

匡郭 四周单边(二・五糎 七・四糎)

罫 有り

板心序 「巳三 嘯風亭梓」

本文 「巳三一 嘯風亭梓」

丁付 一(二十二)

挿絵 半丁(序の前半丁)

印 「嘯風亭／圖書記」(見返し右上方 朱・陽・長方 縦四・一糎 横

二・三糎)

備考 「世」(見返し左下方 墨刷・陰・方 縦〇・六 横〇・七)

「龍」(見返し左下方 墨刷・陽・方 縦〇・六 横〇・七)

「雅集／席上記」(序表 墨刷・陰・長方 縦一・四 横一・〇)

「皆川／愿印」(序裏 墨刷・陰・方 縦一・五 横一・四)

「伯恭／氏」(序裏 墨刷・陰・方 縦一・五 横一・四)

「雄」(三丁裏 墨刷・陰・方 縦〇・八 横〇・八)

「選」(三丁裏 墨刷・陰・方 縦〇・八 横〇・八)

「愚」(跋末 墨刷・陽・方 縦〇・九 横〇・八)

「山」(跋末 墨刷・陽・方 縦〇・九 横〇・八)

朱の書き入れあり。

見返し上方「嘯風亭／圖書記」の印は、刈谷市中央図書館村上文庫本にも、本書と同じ箇所に見られる。

(2) 翻刻

新書画展観目録 全

「表紙

朱印〈嘯風亭／圖書記〉

東山新書畫

展観 牛山書

刷印〈世〉

刷印〈龍〉

「見返し

繪〔墨梅図〕 刷印〔雅集／席上記〕

一才

春秋賞會期歳必繼于

乎地

書畫風流重新更懷於

玉人

皆川愿題 刷印〔皆川／愿印〕

刷印〔伯恭／氏〕

一序ウ

寛政丁巳三月廿七日東山清水寺新書

書展觀

草書五大字 以帝 會友

行書一行

水墨雪梅 絹本

艸書贈織田岐山詩

楷書二行 絹本

淡彩山水 鶴橋柚木太淳賛

着色調馬圖 絹本

淡彩雨後山水

行書詩聯

墨竹

真艸画六種 絹本

淡彩瀑布圖 絹本

艸書二行

着色老松幹圖

皆川淇園 〔采 中立賣〕 〔采 文藏〕 〔采 平安文學〕

藤竹坡 姉小殿 次公子

可觀堂 〔采 馬場錦〕 称岸雅樂助 〔采 蘭麝〕

村井椿壽 肥後人

梅蘭玉 七盛専／称練之助 伊 勢 人

皆川淇園 重出

藤白山 称林元寮 平安人

西村南溪 〔采 三条〕 称長左衛門 平安人

伊達文徳 永開人 稱郡司

僧明堂 大徳寺 碧菴

岩佐其明 称文造 丹波人

鈴木芙蓉 名雅 江戸人

松舍光林 称久世旨衛 美濃人

原在中 平安人 〔采 中賣〕

行書水院待月詩

着色佛手柑圖

淡彩五老峰 絹本

淡彩鶴

隸書一行

水墨太湖石

墨書龍虎 對幅

方尺之印 隸書題詩

着色布袋和尚 絹本

淡彩鐘馗

淡彩初夏山水 絹本

草書二行

行書題詩 并長次子画各扇面

着色躑躅花

着色維摩像 玉峰賛 絹本

行書蘭亭記

淡彩山水

行書七絶

西洋文字

淡彩暮春山水

淡彩山水 幻菴賛 對幅

水墨龍虎

艸書樂天詩

墨書墨粟花

行書春宵絶句

尾早長卿 名守富 丹後人

丹羽氏 成開人

僧自淨 瓊多尾張人 圓出 平安人

法眼東洋

藤市僊 称藤田平兵衛 長崎人

神卷在慶 原門人

源照道 号夕齋 平安人

織田岐山 称藤助

米田遊雪 狩野其宗門人

源栢園 称上阪忠兵衛 平安人

小栗金壺 岩垣人 在長崎

東城仲連 松本商人 称吧藏／三河人 備前

紀玉堂

原在明 在中次男 江戸人

田中東疇

谷雪山 称修理 伊勢人 文樂兄弟

谷氏 名舜英 九六翁

西依成齋 〔采 俗義平〕

小杉弘元 称市左衛門 美濃人

加茂專顯 山本伊豫權 守

桑山嗣悰 称左衛門 紀伊人

吉村孝敬 蘭洲男

萱原師輔 称文造 平安人

西田文仟 八盛重 称目之天津人 文樂交

谷麓谷 江戸人

一才

一 2ウ

一 3才

一 3ウ

篆書三天字 墨無邪

淡彩山水

墨竹

墨畫梅竹 對幅

着色蟾蜍攀松圖

行書探梅詩

艸書一行

行書大字 對幅 龍吟 魚躍

淡彩山水

淡彩山水

墨菊 絹本

着色戲童圖 絹本

行書七絕

墨竹

行書唐句

着色胡人狩獵圖 絹本

行書一行 溫良恭儉讓

墨画月下鶴 絹本

淡彩寒林飛泉 絹本

行書心經 絹本

臨金丹四百字

淡彩山水

讚歎品 染絹本

行書舞賦

藤市仙 重出

雪樵園 剪簡人 甲斐人

鈴木小蓮 芙蓉男

井岡元泉 稱大藏 江戶人

松本奉時 稱周助 大坂人

宮子玉 名振 丹後人

三宅嘯山 平 安 人 〔朱〕中長者丁町

藏氏 觀聲間人 名幹々 号瓊華

林氏 江戶人 稱遊進左近

源良景 平安人 十一齡 名多保美禪人

江馬氏 蘭洲人 稱舍人

岡屋免蹊 伊勢人 稱河村豆衛

紀子璞 土右衛門 伊勢人

長谷川繼 稱啓助 文儒人

在原幸恕 伏水人 圓山間人

佐々木直行 稱俊助 月漆第 稱松村直一

源景文

伊藤東所 播磨人

藤東帛 重出

井岡元泉 江戶人

糟屋時鳴 南窗簡人

源杏林 名正之 平安人

藤關山 平安人

榊原台谷 江戶人

4 才

行書李益牡丹詩

着色春色山水

行書新書畫展觀詩

著彩西園雅集圖 絹本

艸書五大字 冬嶺秀孤松

水墨雪中山水

淡彩兔

着色牡丹貓圖 絹本

行書五絕

墨畫寒山拾得

丹書書 吟

艸書五絕

着色壽星圖 絹本

着色虎飲水圖

淡彩夏晚山水

艸書三行唐絕

行書舞鶴賦

隸書十二相屬詩

墨菊 源榜亭贊

艸書松岡亭詩

行書王維詩 絹本

淡彩東方朔 絹本

墨画凱陣圖

墨画雪梅

紀三學 平安人

村田高 竹屋簡人 稱元朔

餘東郭 多鳥 在大津 尾張人

山崎成昌 在並安

細合半齋 〔朱〕シ工系 〔上ル〕元來浪花 尾張人

藤琴臺

蘇子黃 〔朱〕四系シン工 佐久間人 稱傳次郎 平安人

赤石鈍雅 觀聲間人

宮維一 名 精 在大津

紀梅亭 〔朱〕俗立九卜云人 柚木簡人 若瀨眼醫

海吉王 〔朱〕東洞御池 歸一當簡人

澤村和卿 稱玄泰 畫院待詔

土佐土佐守 〔朱〕寺町丸本 因幡人

土方稻嶺 在並安 竹屋簡人

八田魏門 稱魏二郎 南窗簡人

大村南明 稱忠兵衛 稱忠兵衛 文雅簡人

文字堅 〔朱〕平安サカイ丁 稱彦五郎 備中人

西山拙齋 備中人

僧月峰 双林等 西園寮

僧百靈 讚岐 宝光寺

龍松桓卿 稱并法郎 伊勢人

谷崎蘭山 蘭洲人 稱櫻高郎

野村釣玄 伊勢人

青地士温 稱彦西郎 平安人

6 ウ

7 才

8 才

| | | | | | |
|------------|------|--------------------------------------|----------|------|------------------------|
| 鈎勒月竹 | 可觀堂 | 重出 | 行書二行 | 度會白圭 | 称中西此面 |
| 草書五絶 | 河合白鷺 | 称外記 | 篆書一行 | 三杉敬典 | 伊勢人 |
| 淡彩山水 | 井上霞山 | 称唐一郎 大津人 | 淡彩山水 | 田村壽秀 | 平安人 東洲人 |
| 行書山居四律 | 深谷敬美 | 称正藏 江戸人 | 草書一行 | 池上元道 | 信濃人 |
| 着色雛鶴圖 | 鶴澤探索 | 画員 | 淡彩三十六歌仙圖 | 吳月溪 | 平安人 |
| 〔朱〕京師西工探鯨義 | 在原幸恕 | 重出 | 行書早春詩 | 角鹿子實 | 稱濃藏 平安人 |
| 淡彩海上初日圖 | 源貞一 | 重出 | 淡彩瀑布 | 原在正 | 在中男 |
| 行書三行 | 中子海 | 〔朱〕四糸シ丁」 〔文雅簡人〕 平安人〔朱〕 俗七兵衛 | 着色牡丹 | 小山高堅 | 土万間人 |
| 隸書二行 | 三熊氏 | 海峯名 霧登安人 | 行書詩稿 | 矢作鴻臺 | 称義助 江戸人 |
| 着色櫻花圖 | 紀三學 | 重出 | 行書春日長篇 | 龜井道載 | 筑前人 |
| 隸書打毬歌 | 江馬氏 | 重出 | 行書春日郊行詩 | 源長尊 | 岩坭氏支族 |
| 西洋文字 | 山本專顯 | 重出 | 臨蘭亭記 | 蔣田暢齋 | 伊勢人 〔朱〕龜△ 三出 |
| 行書春野詩 | 關克明 | 其舅男 江戸人 | 水墨雪鶴 | 可觀堂 | 八盛堂 嘯山孫 称佐兵衛 |
| 小楷遺教經 | 僧李明 | 長壽寺 土一童 | 行書古詩 | 三宅乙龍 | 近江人 |
| 淡彩山水 | 岸卓堂 | 雅樂助男 安藝文字 | 雪竹 | 圓明秀 | 土万間人 |
| 墨画太湖石 | 賴千秋 | 丹波人 | 淡彩普化和尚圖 | 平一元 | 称北条孔助 |
| 行書二行 | 僧雪蛾 | 守 | 淡彩山水 | 大原尚賢 | 〔朱〕寺町由兵衛 尾張人 |
| 水墨山水 | 寺田土鸞 | 称安二郎 平安人 | 隸書七言古詩 | 服部良古 | 備後人 |
| 行書一行 | 江蘭 | 上田伊豫 守 | 行書遊播州記 | 村上彦俊 | 号龜堂 平安人 |
| 艸書三行 | 橘公遵 | 圓山門人 | 篆書酒德頌 | 村井自然 | 平安人 |
| 着色牽牛花蠟 | 喜多武清 | 称金次郎 称笑之助 江戸人 | 淡彩海錯圖 | 西村楠亭 | 圓山門人 |
| 泥金描世尊像 | 西岡邦教 | 称石備門 伊勢人 | 行書遊播州記 | 蘇文雅 | 〔朱〕四糸シ丁」 名良英 平安人 |
| 淡彩花鳥 | 僧月仙 | 伊勢人 | 楷書千文 | 田龍媒 | 柚木西人 名太駿 |
| 着色仙宴圖 | 永田西河 | 〔朱〕クワンガ男 竹富簡人 平安人 | 着彩春山圖 | 白井惟徳 | 〔朱〕大宮高辻 称元造 平安人 |
| 行書二行 | 藤政親 | 村井兵部大丞 | 并題 | 源真足 | 竹富簡人 |
| 水墨月梅 | | | | | |

淡彩人物山水 絹本

着色劉阮天台圖

艸書一行

淡彩菊

行書石垣龍溪詩 二熊齋書 寫詩意

行書七絕

淡彩鷺圖 絹本大幅

隸書孟子語

行書雨中春望應

墨竹友石

行書五絕

行書文賦

着色山水 絹本

行書掃塔古詩

行書桃李園序

着色關帝圖

着色浣衣女圖

淡彩山水 秦鼎贊

淡彩子路負米圖 源壽言 畫本

淡彩秋色山水

西洋文字

草書茶語

行書長樂寺聯句 橘洲乾 齋山隱

水墨山水

墨蘭 并題

山口素絢 〔朱〕四糸高倉 圓山門人 稱可吉

村上松堂 〔朱〕室下五糸 崖門人 稱元之丞

西谷二松 稱簡郎 平安人

篁真道 稱九造 竹富門人

甲田子玉 岩相門人 稱正顯

大川滄洲 赤穂文學

白芝山 重出

村田中龍 稱忠造 平安人

越智世俊 見院 法眼旁

松山大成 竹富門人 越後人

源清貞 永昌人 平安人

文字馨 註14 〔朱〕鴻池ノウニ 文雅門人 平安人〔朱〕宗七

皆川淇園 三出 重出

源掉湖 另歸一堂 南宮孝子 圓山門人稱

源章 並源兵衛 重出

山口素絢 尾張人

巢来山 尾張人

源惟功 竹富門人 美作人

黒川竹溪 竹富門人 稱貞藏

大町宗司 岩相門人 平安人

三宅乙龍 重出

佐野山隱 阿波人

餘夙夜 東山〔朱〕青木左五門 大雅堂

多田氏 名惠美

着色櫻譜 諸名家贊

墨画紀貫之像 絹本 圓山門人

淡彩雨景山水 絹本

篆書座右銘 大福 平安人稱

墨画龍虎 對幅 三雲芝助

淡彩松林山水

墨竹

淡彩人物

墨書山水

隸書二行

淡彩竹林寺圖

金字舞鶴賦 紺紙 稱伊兵衛

淡彩秋林讀書圖 皆川淇園贊 絹本

着色宴桃李園圖 絹本

行書花下宴詩

着色太上老君 絹本

荊竹圖

着色山水

淡彩山水

草書七絶

行書一行

淡彩烏骨鷄

墨竹

行書綠牡丹詩 竹臺画

織田氏 岐山 名譽

佐久間草偃 〔朱〕フヤ丁アヤ下也 土佐門人 平安人

吉村蘭洲 圓山門人 平安人

藤仙嘯 三雲芝助 平安人稱

秀雪亭 〔朱〕高弟 圓山門人 〔朱〕スハノ子 平安三景錦山

上田耕夫 平安人

武市氏 岸門人十二歳 名

寒巖 稱北山文卿 江戶人

十時梅厓 稱半藏 伊勢人

栗虔甫 觀聲門人 平安人

藤桃齋 阿波人 在平安

出原東塢 稱伊兵衛 平安人

橘豊彦 月溪門人 稱岡本幸平 名譽

紀竹堂 平安人

源五雲 岩垣和泉寺 龍溪義子 稱文五郎

谷文晁 江戶人 四出

皆川淇園 稱縫殿助

狩野永俊 稱縫殿助

木下應受 應鑑第 稱匡一

僧六如 大津人

橘松翁 大津人

梅澤文川 稱都平

雄選 霞離門人 稱新六

清龍川

14ウ

12ウ

13才

13才

15ウ

15ウ

16才

14ウ

14才

14才

14才

14才

14才

行書春月詩 并画

江邨台岳

16ウ

行書山水詩 并画

早崎伯機

多衝浪人

16ウ

行書春雨詩

倉君雅

名瀧後

16ウ

行書題畫山水 并画

宮田士度

名瀧後

16ウ

行書 邊聞鶯詩

三雲仙嘯

重出

16ウ

楷書醉眠詩

岩魚龍

名智名

16ウ

楷書雪鷺詩 鶴山画

田新甫

字季好

16ウ

行書遊樂苑院詩

松不識

名元吉

16ウ

行書早春郊行詩

伊藤繼先

名勤

16ウ

行書春郊晚歸詩

餘東廓

重出

16ウ

隸書題画山水 鶴山画

宮田嘯臺

名雅

16ウ

草書春興詩

原玄龍

名經承

16ウ

行書春郊作

松井仲念

名元辰

16ウ

行書雨後春望作

杉岡暎桑

名邊

16ウ

楷書山房春事詩

越巢南

名高

16ウ

行書春月詩

永田西河

重出

16ウ

草書 邊聞鶯詩 并画

紀竹堂

重出

16ウ

行書江春入舊年詩

林岐山

名連上

16ウ

行書春夜詩

筒井靖齋

佐知原郎

16ウ

行書墨竹詩 并画

岡南嶽

名息

16ウ

行書花岸泛舟詩 并画

僧玉

重出

16ウ

行書春雨偶作

檀徂卿

名規

16ウ

行書竹牡丹詩

永田尚

名嘉實

16ウ

行書春郊晚歸詩

朝倉荆山

名華

16ウ

行書墨竹詩 并画

橘春樹

梅仙男

19ウ

行書春日訪友詩

岡鶴鳴

名早

19ウ

行書元旦詩

松山士德

名身調

19ウ

行書墨梅詩 并画

荒木田南陵

名眞正

19ウ

行書蝸牛上蕉葉詩 鶴山画

紀龍窟

名廣

19ウ

行書春雨詩

牧野鳩草

名士應

19ウ

行書春日偶作

越貞齋

名敬

19ウ

行書村行詩

大野國寶

名鼎

19ウ

行書咏栗詩

山田鼎石

名瑛

19ウ

行書喜晴詩

龍松桓卿

重出

19ウ

行書題畫山水

畑橘洲

名積

19ウ

行書山亭獨酌詩

中村錦洋

名沖

19ウ

行書咏敗天公詩

島菜風

名正羽

19ウ

行書河南道中詩

筱盤谷

名詞

19ウ

行書美人春遊詩

久季成

名誠

19ウ

行書早春郊行詩

柚木南畝

名誠

19ウ

楷書水邊垂詩

藤士簡

名易

19ウ

行書春興詩

福俣命

名易

19ウ

行書春園偶作

栗義王

名宜

19ウ

草書咏紙鳶詩

水野士勤

平安人

19ウ

行書獨酌詩

松山公瑾

名清

19ウ

行書春日寄興詩

平藍川

名惟男

19ウ

行書呈龍川尺牘

柚木鶴橋

津山藩人

19ウ

行書遊嵯峨詩

大田玩

以下十五幀墨君社中

19ウ

雪竹

僧玉

雨竹

小林龜溪

称順堂

露竹

貫東柯

称正

風竹

安沙井

近江人

露竹

西村南溪

重出

風竹

源南山

平安人

晴竹

藤西疇

平安人

露竹

源青霄

大津人

露竹

源甘谷

大津人

露竹

橋松翁

重出

露竹

小野梅園

大津人

晴竹

源凌雲

近江人

露竹倚石圖

僧德母

江州勢田

露竹倚石圖

僧君山

江州石山

本願寺新門主書其他七幀別録通計二

百六十三幀隨得録之非敢為品秩于其

問也

嘯風亭雄選拜識

刷印〔雄〕

刷印〔選〕

掌檢

蘭

大江成美

君山

南溪

藤正候

三疆

三學

紀止

子基

竹堂

紀寧

清夫

岐山

平信寬

士猛

掉湖

源直行

仲方

22ウ

22才

21才

21ウ

今展此冊諸名家風流逸韻可

想知也余既喜遍目其筆跡而

猶以不能盡面其笑談為憾烏

耳 愚山慎題

刷印〔愚〕

刷印〔山〕

裏見返し

註

1 日本書誌学大系45『相見春雨集』三（書袋堂書店 平成四年）に再録。

2 東京芸術大学附属図書館『脇本文庫目録』（一九七六年）参照。

3 先述相見氏の「東山の書画会」。

4 漢文の引用に際して、旧漢字を新字体に適宜改めたほか、私に訓点を施した箇所がある。

なお、『淇園文集』編（寛政十一年刊）・『淇園詩集』編（寛政四年刊）・木活本『淇園文集』

（文化十三年序）・写本『淇園文集』の引用は、『近世儒家文集集成 第九卷 淇園詩文集』

（べりかん社 昭和六十一年）による。以下同。

5 『池大雅』大雅の画譜 は、ともに日本書誌学大系45『相見春雨集』二（書袋堂書店 昭和六十一年）に再録。

6 引用は、東大史料編纂所蔵本に拠る。なお、引用に際して、句読点及び濁点は私に施した。

7 『鴻の巢抄』八 二 東山新書画展観（『美術史学』 昭和十九年一月号）

8 この折の俳諧の記録は、暁白編『風羅念仏』法空之巻（天明三年三月序）に収められてお

り、同書中に「同（田邊註）天明三年三月 十四日 洛東於安養寺瑞齋興行」と見える。

9 『角川日本地名大辞典』（角川書店）参照。六坊のうち、左阿弥は料亭として、今なお、

その名を留めている。

10 新修『京都叢書』第九卷（臨川書店）昭和四十三年刊）所収の影印本より引用。

11 文人が好んで集った、円山という場所の空間的広がり・造りについては、出村嘉史・川

崎雅史・田中尚人「近世の京都円山時宗寺院における空間構成に関する研究」(「土木計
画学研究・論文集」十八号、二〇〇二年九月)に詳しい。

12 「円山勝興庵正阿弥」の箇所では、まさに「書云 図が描かれている。

13 この箇所「声」の字は「王」の部分がない略字。

14 この箇所「磬」の字の「石」の部分を朱にて「水」と改めている。

(たなべ なほこ・九州大学大学院博士後期課程)